

## 編集後記

システムは安定を目的として機能します。コロナに対する対応も、当初は社会に大きな動揺を与えましたが、今年度は全面对面授業を行うことができたり、合宿や定期試験を実施できたりと、徐々に元の状態への回復が見られ、安定状態に近づいてきたようです。もちろんビデオ会議やハイフレックス授業など、コロナ以前から変わったところも多くあります。しかしキャンパス内に学生があふれ、対面でディスカッションする姿を見ると、変わらぬ大学の姿に安心し、また喜ばしい気持ちにさせられます。

さて、13巻は5編の論文と資料、各研究室の研究報告・活

動報告が掲載されています。各領域での論考、資料だけでなく、教育実践的内容についても扱われており、心理学科の教育・研究についての熱心な取り組みが安定的に機能していることがわかります。本論集に投稿して下さった執筆者の方々、査読者の方々、編集委員の下斗米淳教授、国里愛彦教授、松嶋祐子准教授に御礼申し上げます。また専修大学出版局の相川美紀様には、編集をはじめとして、進行管理など刊行にかかわるさまざまな作業をご担当いただきました。記して感謝の意を表します。

(心理学篇編集主幹 小杉考司)